

# 3月園だより

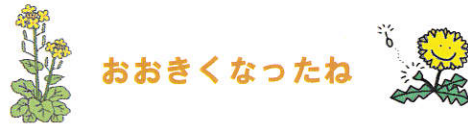


円町まぶね隣保園  
京都市中京区西ノ京北円町 50  
TEL (075) 462-8829  
携帯 (080) 4069-0682  
(080) 4299-1644

## 法人の理念

キリストの愛の精神に立って、福祉サービスを必要とするすべての人に仕え、日常を支援し、常に人びとの人権を護り、その人格の尊厳を尊重します。

## 今月のねらい



### おおきくなったね

- しいの実 大きくなったことを喜ぶ。
- たんぽぽ 大きくなったことを喜ぶ。
- みず 大きくなったことを喜ぶ。



### おおきくなったよ

- かぜ 大きくなったことを喜ぶ。
- そら 大きくなったことを共に喜ぶ。
- たいよう 大きくなったことを喜び、新しい生活に期待をもつ。

## 3月の行事

- 2日(月) 乳児検診
- 3日(火) ひなまつり
- 7日(土) 新入園児保護者説明会

PM2:00~3:30

- 11日(水) お別れ遠足 (たいよう組のみ)
- 13日(金) お誕生会
- 14日(土) 園庭開放 中止
- 19日(木) お別れ会
- 21日(土) 卒園式
- 27日(金) 保育終了
- 28日(土)~31日(火) 家庭保育協力日

避難訓練...未定



寒さの中にも少しずつ暖かな日差しや吹く風に、春の訪れを感じる頃となりました。球根の芽、木々の蕾からは、やがて花を咲かせる希望と生命力を感じます。いよいよ一年の締めくくりの月となりました。この一年の生活を振り返り、一人ひとりの成長を共に喜び、感謝したいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中、色々のご協力いただき、ありがとうございます。3月の行事も見直しが必要となってきています。

終息を祈りつつ、ご理解、ご協力をよろしくお願いします。



## お誕生日おめでとう



※3月の誕生会に参加希望を考慮しておられる保護者の方の参加は控えていただきます。ご了承ください。(新型コロナウイルスの防止の為)

### 園外保育

(お弁当の用意をお願いします。)

- 11日(水) 双ヶ丘(お別れ遠足) たいよう
- 新型コロナウイルスにより公共機関の使用は控えます。



## お願い

新型コロナウイルスの対応では国からの要請があり、今後も制限されることが増えてくるかと思われまます。ご迷惑をおかけしますが、その都度、お知らせしますので、ご理解、ご協力よろしくお願いします。

## プラスチックを考える

キリスト教保育冊子より  
別紙を参照ください。

## 卒園式について

21日(土) AM10:00 からです。  
3.4歳児クラスの子どもたちは、一緒にお祝いします。  
卒園式後(AM11:00頃)お迎えをお願いします。  
当日の保育はありません。(プログラムや参加者の変更を余儀なくされることもあるかもしれません。)



## お願い

保育利用に(保育時間など)2020年4月から変更のある方は3月5日(木)までに手続きの書類を園に提出してください。



## 今月のみことば

「主は、あなたたちの辿る旅路を見守っておられる。」  
[士師 18:6]

入園当初は不安いっぱい泣いていた子どもたちも、保育者としてしっかり絆ができ、安心して園生活を過ごすことができるようになりました。

この一年間、いつも神様の恵みと守りの中に、一人ひとりが過ごし、成長できたことを感謝しましょう。

今年度の保育終了、そして、たいよう組にとっては卒園を迎えます。やがて別れと、出会いの時を迎えます。子どもたちと保護者の皆様にとっては喜びと不安のひと時でしょう。

私たちの人生は決して、平坦ではありません。よく、人生をマラソンにたとえられますが、登り下りが続くと、すっかり疲れ切ってしまいます。そのような時、沿道で見守り声援を送る人たちの存在があれば、どれほど励まされることでしょう。私たちは、決して一人ではないと感じる時、生きる力が与えられます。

私たち大人が子どもの歩みを見守るように、神さまも私たちを見守ってくださいます。

誰かにしっかりと見守られている人生は、心強くもあり、安心でもあります。

## 苦情解決委員会

- 苦情解決責任者 重富喜恵子
- 苦情受付担当者 森 ひかり
- 第三者委員 大橋 紀恵
- 笹野 芳照
- 申 英子
- 米田 雅子

## プラスチックを考える

久慈るみ子

尚綱学院大学

プラスチックは科学の力で石油から生まれた合成樹脂です。

私たちの生活には実に多くのプラスチック製品が溢れています。ペットボトルを始め多くの容器類、袋、ラップ、フィルム、スポンジも遊具も食器も椅子もコンタクトレンズもとキリがありません。紙や竹など天然素材の多くは、その役目を終えると自然界に還りますが、プラスチック製品は還りません。

そこでプラスチック製品はリサイクルの対象として回収されます。

しかしプラスチックごみは、その量と

回収の不確実性から、今や世界の環境問題となっています。さらに面倒なことにプラスチックは紫外線や波にもまれ破砕し微細片化します。また洗濯ではフリース素材など合成繊維（多くは石油が原料）の繊維くず、台所のナイロンやアクリルたわし、メラミンスポンジ（石油が原料）のくずなどが下水に流れていきま

は2050年には魚の重量を上回り、マイクロプラスチックの重量濃度は日本周辺や北太平洋中央部海域で2030年までに現在の2倍、2060年までに約4倍になるとの報告があります。プラスチックごみで窒息死した鳥や、魚の体内にマイクロプラスチックが存在する画像もニュース等で見ます。

微小ですのでマイクロプラスチックと呼んでいます。

プラスチックは消化されませんので体内に入ると栄養の摂取を妨げ、生物の命を奪います。またプラスチックに含まれる添加物の影響、海中の残留性有機汚染物質の吸着による人体への影響も危惧されます。

一方始めから微小なマイクロプラスチックビーズと呼ばれるものもあります。現在は規制の方向ですが洗顔料や歯磨きペースト、紙おむつの吸水ポリマーに配合され、微小のため海中浮遊し、海底や土壌に堆積します。

ぜひ自分の回りにあるプラスチック利用量の確認、併せてネット検索等で私たちに今何が起きているかを確認して下さい。

『環境白書 平成30年度』に、このままでは海洋に漂うプラスチックごみの重量

を減らすことを願います。